

2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

西部中学校区	校番 33	福山市立柳津小学校
最終更新日		2024年(令和6年)2月22日

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価報告書ではすべての項目で「十分満足できる」「おおむね満足できる」と評価された。 評価指標は数値だけでなく、子どもの実態でも評価したほうがよい。 ICT教育に向けて、先生方は大変だろうが前に向けて進められるよう頑張りたい。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査では、多くの学校が全国平均を下回っており学力の定着に課題がある。 同調査の「意識調査」ではほとんどの項目で全国平均を上回っている。「わかる」と「できる」の認知の差が大きい。 素直な子どもが多いが、表現力など本当の意味での自己肯定感が弱い。 	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】【自己形成力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 確かな学力を身につけ、自ら進路を切り開く子ども 自己肯定感が高く、社会に貢献できる子ども <p>・「主体的な学び」の授業づくりに取組み、学力の向上を図る。 ・「自己表現」「あいさつ」に取組み、自己肯定感の向上を図る。 ・「自分で選び・決める活動」に取組み、自己形成力の向上を図る。</p>
---	--	--	---

III 自校

<p>ミッション</p> <p>地域や保護者の信頼に応え、地域住民から愛される学校を地域と共に創造する</p>	<p>学校教育目標</p> <p>進んで学び 豊かな心でたくましく生きる子どもの育成 ～基礎学力を定着させ、学びに向かう力を育む～</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像</p>	<p>【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】【自己形成力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自ら考え学ぶ意欲的な児童 主体的に活動し、自ら成長する児童 豊かな心を持ち、地域から応援される児童
<p>現 状</p> <p>〈児童生徒〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 課題に粘り強く取り組もうとする児童が増えた。 ● 基礎学力の定着が十分でない。(国語科学年末テスト【知識・技能】到達率79.4% 漢字まとめテスト到達率83.6% 算数科学年末テスト【知識・技能】到達率88.6%) ● 集中する・やり切る・見直しをする等の学習に向かう力が低い。 <p>〈授業〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「1時間でどんな力をつけるのか」を明確にすることを意識することで、児童の課題も明確化され、児童思考する授業が出来た。 ● 算数科で、振り返りを書く習慣は定着したが、自分の学びを振り返り自己調整を行うメタ認知力が十分育っていない。 	<p>教科等</p> <p>国語・算数</p> <p>研究 主題・内容等</p> <p>児童自身が「わかった」「できた」「おもしろい」と実感できる 主体的な学びの創造 ～教材研究の深まりが授業の魅力になる～</p>	<p>めざす授業の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの学ぶ姿を具体的に思い描き、付きたい力を明確にする 単元構想:「教えること」「ひとりですること」「みんなですること」 一つ一つの知識がつながり「できた」「おもしろい」と感じることができる 児童自らが学んだ知識技能を使って、粘り強く自分の考えや思いを文章で<u>しっかり書く</u>活動を取り入れる 振り返りを通して、児童が学びの深まりを実感することができる 	

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	プロセス達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況	プロセス達成総合評価	改善方策			
2	「主体的な学び」の授業づくりを進めて、学ぶ意欲と学力を向上させる。	★	新規	基礎学力を定着させ、学びに向かう力を鍛える。	①みかげ山タイムにおける既習事項の定着。 ②算数科における振り返り活動の実施。	①漢字・計算の定着 漢字のまとめテスト・算数学期のまとめテスト到達率(85%以上) ②算数の授業の振り返りに、自分の学びを認知している児童(80%以上)	①まとめテスト 漢字：79.2% 算数：78.3% ②算数の授業の振り返りに、自分の学びを認知している児童73%	3	3	漢字に関しては、引き続きみかげ山タイム・ウミベノマナビを活用して繰り返し指導していく。算数に関しては、レディネステストをもとにコクサン会で教材研究を行い児童一人一人が「わかった」「できた」を実感できるきめ細やかな指導を行っていく。 振り返りの質を上げるために、具体的な話型を示したり、手本となる児童の振り返りを紹介したりし、児童が学びを認知した振り返りができるようにする。	①まとめテスト(2学期末) 漢字：83.0% (10月末から22.3%上昇) 算数：58.5% ②算数の授業の振り返りに、自分の学びを認知している児童84.3%	3	3	3	漢字や基礎計算の定着を図るために、児童一人ひとりの実態に寄り添いながらやりきらせる指導を行ったことで数値が上昇している。学んだことを活用して書いたり、考えたり、説明しただりする場や機会を設定していく。算数では、課題のある単元を分析し来年度の学びに生かし、前学年までの学習内容にも目を向け、確実に定着を図っていく。 教職員が振り返りの視点を共有し、児童が主体的に振り返りをしていくことができるよう指導をしていく。
2	教職員の資質・能力の向上を図る。	★	継続	職員が、元気と笑顔で意欲的に仕事をやる。教職員の教材研究力を高める。	①放課後、職員室で、じっくり教材研究を行う時間を確保する。	①仕事に意義とやりがいを感じている教職員(80%) ②放課後、教職員が児童の様子や学びについて、対話をしている。	①仕事にやりがいを感じている教職員55.6%。どちらかというと感じている44.4%。 ②毎週のコクサン会以外にも、放課後の職員室や各フロアで教職員が日常的に対話する機会を設け、児童の指導に活かしている。	3	3	教職員の心身の健康状態に気を配り、日常的に肯定的な声かけをしたり、課題への取組支援をしたりすることで、教職員の意欲とやりがいを高める。 教職員に行事予定を確実に伝えることで、見通しを持たせ、教職員が放課後の時間を計画的に自己裁量できるようにする。	①仕事にやりがいを高く感じている教職員50%。どちらかというと感じている50%。 ②放課後や休憩時間、職員室や各フロアで、児童の様子や学びについての対話が日常的にできている。	3	3	3	①引き続き教職員の心身の健康状態に気を配り、肯定的な声かけなどによって教職員の意欲とやりがいを高めていく。 ②授業や児童の様子などを日常的に対話できる教職員どうしの関係づくりとそのための時間の確保を行うことで、教職員の元気と意欲を保持していく。
2	児童・生徒の自己肯定感を高める。	★	新規	自分の好きなこと、得意なことを伝えることができる。	①自分の生活の中で、好きなこと、得意なことを見つけ、他の人に伝える場を設定する。	①自分には好きなこと、得意なことがある。(80%以上) ②児童は意欲的に表現することができる。	①好きなこと、得意なことがある。96.7% 自分にはよいところがある。86.5% ②自分の思っていることや感じていることを言葉で伝えようとしている。84.8%	4	4	引き続き、授業や朝の会等で、自分の好きなことや得意なことを発表する場を設けていく。さらに、自己を認知し、他者から認めらたり称賛されたりする機会を計画的に設けていく。 自己肯定感が低い児童には、個別の対応策を考えていく。担任だけでなく、教職員全体で全校児童と関わり、一人一人を大切に教育活動を仕組んでいく。	①好きなこと、得意なことがある。97.4% 自分にはよいところがある。85.8% ②自分の思っていることや感じていることを言葉で伝えようとしている。90.2%	4	5	4	自分の好きなことや得意なことを発表する場を意図的に設けることで、意欲的に自分の思いや考えを言葉で伝えようとする児童が増加し、目標を大幅に達成することができた。今後も、さらに児童一人一人の自己肯定感を高めていく取組を行っていく。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評価	評価基準	評価	評価基準	評価	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。